

# ひとが輝く 希望ある未来への挑戦

—令和5年度施政方針から



津波避難広報ドローン。  
先端技術を活用し、防災力の高い都市づくりを進めます

国家戦略特区を活用した規制改革の動きを加速させます。  
災害に強いまちづくりに向けては、SNSを活用した被害情報の集約等の実証実験に取り組みほか、産学官金の連携による新しい産業創出モデルの構築を目指します。  
地域経済活性化に向け、中心部商店街における人流データを分析し、来街者増加や回遊性向上につなげます。また、eスポーツによる高齢者の健康・生きがいづくりや、先端システムを活用したフレイル予防の健診を実施するほか、宮城地区西部においては、AIカメラによる有害鳥獣対策を開始します。学校教育では、デジタルドリルを導入し、それぞれの学びに合わせた教育環境を整備します。行政運営や手続きのデジタル化にも取り組み、各種申請手続きのオンライン化を推進します。

## ひとの暮らしを支え、未来の担い手を育む

安心して出産・子育てできるよう、子ども医療費助成の所得制限



妊娠期から出産・子育て期にわたり、切れ目のない相談支援の充実を図ります

を撤廃するほか、妊娠期から出産・子育て期まで一貫して支える伴走型相談支援と、出産・子育て応援給付金の支給を一体的に実施します。併せて、不妊に悩む方に対する相談支援体制を拡充します。また、定員に空きのある保育所等において、未就園児を定期的に預かるモデル事業を実施するなど、保育サービスの充実を図ります。  
小学校では、35人以下学級を5年生まで拡充するほか、社会全体で子どもを守るという意識の下、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に全力で取り組むとともに、児童生徒の安全・安心を確保するため、全市立学校への防犯カメラの設置を進めます。  
本市を巡る医療環境の変化などを見据え、医療政策に関する方針を策定するとともに、オンライン診療を活用して休日・夜間の初期救急医療体制を充実させます。  
また、困難を抱える子ども・若者への支援強化を目的に、「子ども・若者支援地域協議会」を設置するほか、ヤングケアラーへの支援につながるよう、当事者同士が



仙台市長  
郡 和子

我が国が今、アフターコロナに向け動き出す中、本市の未来を切り開いていく鍵は、幅広い人材の交流と新たな価値の創出により、域外から投資を呼び込む、その好循環にこそあると考えます。世界では、スタートアップがイノベーションや新たな雇用を生み出し、本市においても若者をはじめ、多くの方の挑戦と世界への飛躍を後押しすることが、このまちの持続的成長に不可欠です。スタートアップ支援やスパーシティ構想など、学都仙台的持つ知の力をビジネスにつなげ、世界を舞台とした競争を勝ち抜くとともに、若者の人材定着を図っていきます。さらにG7仙台科学技術大臣会合等の機会を捉え、世界に本市の魅力を発信し続けることが必要です。本年度を「観光再生元年」と位置付け、重点市場であるタイや台湾へのトップセールスを行うなど、交流人口拡大に取り組めます。本市の未来を見据えたとき、若い世代が生き生きと活躍できる環

悩み等を共有するオンラインサロンを開催します。さらに、困難を抱える女性へのアウトリーチ型相談支援の拡充や、ひきこもりの方の実態・ニーズの把握に向けた調査を実施します。  
市民活動団体等の専門性を生かした地域の課題解決を進めるほか、民生委員児童委員の活動費を引き上げ、協力員制度を拡充します。

## すべてのひとが活躍できるまちの魅力を創造し、発信する

国際会議等の誘致に加え、訪日旅行再開に合わせた外国人観光客へのプロモーションに取り組めます。デジタル技術も活用しながら、各自治体と連携した魅力発信や周遊促進を図り、東北のゲートウェイとしての役割を果たします。  
本市の顔となる都心部においては、都心再構築プロジェクトによる再開発の事業化を目指す地元組織への支援や、仙台駅前エリアの将来ビジョンの検討のほか、勾当台公園・定禅寺通の再整備、商店街活動の支援などを加速します。泉中央エリアにおける交通環境改善の検討や、長町エリアの魅力の街並み空間づくり等、地域との協働によるまちづくりを進めます。

東部沿岸地域では、貞山運河な

境づくりが重要です。「子育てが楽しいまち・仙台」を実現するため、「(仮称)仙台子ども財団」を設立し、子供未来局を「子ども若者局」に改め、困難を抱える子ども・若者への支援を強化します。  
本市はこれまで、内外に誇る良好な都市環境を、市民協働により創り上げてきました。青葉山エリアをメイン会場に開催する全国都市緑化仙台フェアを契機に、都の都市ブランドを強化します。また、折り返し時期を迎えた「仙台防災枠組」の中間評価の結果を国際会議などで発信するほか、2050年のカーボンニュートラル実現に向けたGX推進を加速させ、脱炭素の取り組みを暮らしの中に広げていきます。

「まち」も「デジタル」も、全ての中心は「ひと」に他なりません。進化する都市機能等をひとの活躍のために活用し、内外から選ばれ「The Greenest City SENDAI」を実現するため、各般の施策を推進していきます。

## ひとが輝く、デジタル化を推進する

市民ニーズに即した先端サービスの提供とまちの魅力向上を図るため、仙台MaaSの機能強化や



タイや台湾等で開催される旅行博覧会への出展等、海外でのプロモーションを展開し、交流人口の拡大を図ります

どの地域資源の活用を推進し、回遊性向上と魅力発信に取り組めます。また、指定避難所等の安全性の確認や避難の丘の再整備を行い、災害への備えを講じます。  
秋保地区では、エリアの特徴を生かした魅力の創出を進め、地域ブランドの価値向上を図ります。  
農業の持続的発展に向けては、環境負荷の少ない生産方式への転換の後押しに加え、米の活用推進や米粉の需要喚起を図ります。  
また、カーボンニュートラルを実現すべく、高断熱住宅の普及や太陽光発電システムの導入支援などの対策を集中的に進めます。

◆ 適正な事務執行があつてこそ、市民の皆さまの信頼を得られ、未来を切り開く施策を推進することができます。構造的・抜本的視点から行財政改革を進め、市民の命と安全・安心な暮らしを守るという使命を全うし、109万市民の皆さまとともに、このまちを希望ある未来へ引き継いでまいります。